東城新聞

農商狀況（二）

浦項（其二）

▲商況 當地は漁季及米穀散季に於ては頗る殷盛を極むと雖ども目下は稍々閑散の時季に在り今一二ヶ月後に至り出漁季に際せは一般大に活氣を呈するなるへし

▲通貨 他地方に反し一部葉錢を使用するも新貨の流通亦頗る盛なり

▲人氣 一般に平穩にして彼我交情良好也

附記 前掲瀰昌洋行は（島根縣人）大塚昇三郎（[illegible]縣人）[illegible]の合資組合（資本金五萬圓）にして支配人稻田中次氏あり事業の目的は農事經營にして大部分は荒蕪地開墾なり目下熟畑約九十町歩を有し大豆及稗草の栽培をなせり開墾用[illegible]三臺あり既墾約三十町歩に及び明治四十三年迄には約三百町歩開墾の豫定なりと云ふ又副業として石油發動精米機（エンゲルベルグ式二臺中北式一臺）を設備し一日平均十七八石を搗精すと云ふ

慶州

哨項へ六里、永川へ八里、大邱（永川を經て）十六里、蔚山へ八里

韓人戸口 村內一千六百三十三戸四千五百五十七人 日本人 三十五戸百十三人（男六十二女五十一）にして職業の主なるものは官吏九、雜貨商五、宿屋一、料理屋三、菓子三戸其他雜業なりとす又守備隊憲兵分遣所、警察署、郵便局、日本人會等あり又韓國側には財務署、普通學、金融組合あり

▲作柄 米作は頗る上作なりしが本年亦生育良好にて昨年より約一割位の增收なるべきか大豆は風旱害のため其の生育不良にて昨年より約二割五分方の減收なるべし

▲商況 當地は各種農產物の產出少なからざるも地位稍々山間に僻在し交通不便の爲め商業上の發達遲々たるを免れず然れども今や當地大邱間に模範的道路の開鑿中にて既に過半の工程を了れるあり尙進んで當地蔚山間道路の改修せらるゝに至らば當地の發展は著大なるものなるべしと信ぜらる

▲通貨 市中小數新貨の流通あるも其多數は一般に葉錢のみを使用す

▲人氣 當地は古來朴直を以て稱せらる近時稍々他地方より惡習の浸潤せるを免れずと雖ども一般に平穩にして日韓人間の交情良好なり

附記 當地方は生牛產出の稍々見るべきものあり又當地は新羅の古都にして名所古跡の探るべきもの古器物の觀るべきもの等あり

蔚山

慶州へ八里、長承浦へ二里、機張へ九里

韓人戸口 邑內二百三十戸一千二百餘八 日本人 五十八戸百八十一人（男九九女八二）にして其職業の主なるものは雜貨商十九、米穀及雜貨四、貸金四、雜貨金貸兼地主三、旅館及料理屋三戸、其他雜業なり又憲兵分遣所、警察署、郵便局、日本人會、日本人小學校（生徒十一名）あり韓國側には財務署、金融組合、普通學校（生徒七十名）等あり

▲作柄 田畑共多少の風害を受けたるも米は春来氣候稍順を得て生育良好昨年の約一割五分乃至二割の增收なるべく一部に旱害を受けしを見るも一般に出來榮へ佳良にて昨年の收穫と大差なかるべし

文苑

●醒めよ韓國少年

鷄北生

國亡びんとして忠臣出づ、家滅びんとして孝子に出づとかや、昔羅馬の亡びんとするや幾多の志士出でゝ身を犧にして國家を既倒に挽回せんとしたりき、[illegible]スと云へる一少年出で敵陣に入り敵將を撃たんとして其身を犧牲にす、其凛たる精神確たる信念實に羅馬の花なりき、何れの國[illegible]の外なし、波蘭士没落の際にも、亦にして然り、我國の會津落城のときにも斯る幾多の例はありき、斯く考へ來りて韓國の現狀を見れば如何なる感か起るべき、極東の大勢も何も知らず徒に暴徒を煽動して良民を苦しめ、正義ある日本を怨みて之を排せんとするが如き言動をなすものゝみ輩出し、真に國家を思ふて日本の指導に依り此國を開發し以て富さんとする忠節の士出でざるは韓半島の前途を卜するに足らむ乎、

●晩秋

脊楓生

颯々たる風よ、鳴るは木枯ごう〳〵、散るは木の葉のばら〳〵、老びたる哉秋よ、霜天寂寞焉として寒炎。ア、……時は之れ、草木の花の咲き香ふ春と去り、榮茂の夏と滿ち足りて、今將た枯凋の秋も逝かんとす、人誰か感なからんや。人も亦榮枯あり、盛衰來りて、其の運命は、瞬時も停止するものにあらず、見ずや昨日の金殿玉城、今日の茅茨破屋の悲哀史を、實にも定めなきは、人の運命ぞ、宛然も浮雲の風のまに〳〵漾うに似たる哉。宜なり、人生は世運に飜弄され、時は自然の支配に羈束さるゝてどや。

俳句

●病中吟

飛天子

水仙に病中吟の氣嫌かな
醫を待つ間甕の氷を破る夜哉
不眠症鼻に似たる病ひ哉
譫語や木枯の夜の熱何度
三寒四温あらぬ病間の火燵哉
温突の病に操れぬ冬の蠅
病に籠る人參に名有る國の冬

五月闇（六十七）

河合柳葉

邉恭の物語を聞いた時子も、一方ならず心配して、

「それはまあ飛んだ事が出來ましたね、大山さんも大山さんぢやございませんか、お子供を申して居りながら、設へ御前樣が迷つて踊るとお仰やつても、御諫言申して留めさうなものぢやありませんか、眞個に貴方の御心配なさるも御有理で、一時も早くお暇をお出し遊ばすやうに致さないと、打棄てれく理には參りませんわね。」

「今になつて考へて見れば、何時やらお前に揺り起された時の夢が、眞個の夢になりさうだ、夢に依つたらアノ夢を見た時に、アノ女がお側に來ないか知れない、それを大殿樣が御心配遊ばして、夢にお告げなすつたのかも知れないさ。お屋敷には、まだまだ世間へ知らさねばならない怪しい事があるのだ」

と、又小首を傾げて思案に耽つた。



「ですけれども貴方、貴方は他の方と違つて大殿樣から種々の事を頼むと、頼まれなすつた身の上でもあり、殊には家令職をお勤めなすつて居らッしやるんだから、ざうあつてもお屋敷の大事を其まゝに見逃しなさる理には參りませんゆゑ、設へお聞入れ遊ばさらんまでも、御諫言なすつては如何でございますでないと全く貴方のお役目が立たないぢやございませんか。」と、眞に好一對と謂ッつべしである。

「サア其處だて、私も此まゝ見捨てゝお置かれんと云ふ事は、能く知つて居るが、昔から例のある事で、いくら明君賢主でも迷ふて居らるゝ時は、何事を申上げても、諫言は耳に逆ひ易いものである、御諫言を申上げるからには、お聞容れ遊ばさらん節は、自分の職に抛つ覺悟で御諫言申さんければならないか、君も然うなつた時は、お屋敷の中は騒擾殿同様、ますます亂れに亂れて、終には御家が潰れるやうな一大事が起るであらうと、それを心配致すのだ。」

「ですけれども、貴方がお出になつても其通りなら、寧そ御諫言申すだけの事を申しあげて、お聽容遊ばさない時は、矢張れ暇を頂戴なすつた方が宜うございます、お居でなすつても、お出なさらなくても、同じ結果になりますなら、寧そ綺麗に然うなすつた方が、大殿樣に對して申譯にもなり、御親戚始め世間へのお聞えも宜いかと存じます、お屋敷の一大事でもあり、貴方の身の一大事でもあるのですから、篤とお考へた上、宜しいやうになさいまし。」

「マア、今夜寢りと思案へた後、いづれと」

「然うなさいまし、それが宜しうございます、サア些と庭までお出なすつてお涼みなさいまし、大分宜い風がございます。」

云はるゝまゝ、團扇を片手に庭に下りて、暫くは涼風に吹かれて椅子に腰打かけて、居たが、どうも御宗家の事が氣に懸るかしてやがて奥の室に入つて熟案するのであつた、けれどもこれぞと云ふ良案名策も出ないゆゑ、疲れた結果終に床に就いた。夜は深々と更け行くのであるが、邉恭はボツチリとも寢す思ひを主家の上に馳せて、あゝか爲うかと考へて、夜一夜全たく眠らなかつたのである。

▲無料紹介欄▼

人事部

●吳服商 に多年經驗あるもの雇はれたし 年十九 氏名在社（一〇五）
●官衙 の給仕に雇はれたし 年十八 氏名在社（一〇六）
●被雇度 豫備役海軍一等機關兵年廿六汽罐の運轉取扱へ雇はれたし普通學有韓語に通ず給料多きを不望 氏名在社（一〇七）
鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ 同縣人（一〇八）
店員入用 薪炭商に經驗ある者雇入たし 壽町三丁目今村商店（一一一）
●雇れたし 年三十九中等教育有簿記 會社の受附又は商店の帳場番を望む 氏名在社（一一二）
●雇れたし 年廿六身体頑健職業を擇はず相當の家に雇はれたし 氏名在社（一一三）
店員入用 保證人ある十六才以上十八才までの人至急入用 氏名在社（一〇九）
●看護婦至急入用 明治町一丁目松岡醫院（一一八）
●女子見習生募集 委細面談 本町六丁目中村齒科醫院
●韓語速成教授 本町六丁目六五 韓語速成講習所
崎村君 よ御親切なる御言葉厚く御禮申上候 石村生（一一五）
下女入用 望の者は本人來談あれ 氏名在社（一一六）
女中入用 裁縫の心得ある人を求む 旭町二丁目[illegible]所（一二〇）
英韓語教授 自午後六時至九時 永樂町三丁目二十一番戸ノ四 上田生（一二二）
●店員入用 二十歳迄の店員五名身元保證人ある者雇入たし 姓名在社（一二三）
●雇はれたし 年廿六西洋料理に熟練旅館料理店又は素人家にてもよし給料不望確實の保證人あり 氏名在社（一二四）

物件部

賣地 本町八丁目通り地所四十坪温突十間建家の價格安にて至急賣却す 姓名在社（九九）
賣地 京仁線富平停車場近所在上水田四石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ 旭町二丁目京城興信所（一〇二）
便利の場所にして電話の備もあり官吏向き八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六五九番に御照會あれ（一一〇）
賄付貸 間[illegible]あり 氏名在社（一一七）
古着 其他不用品買受けたし 旭町一丁目競賣所（一一九）
貸間 旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸したし望の方は御來談被下度候 旭町一の六十ヶ仁商會（一二一）

●漢城便り

西小門

●伊藤統監には昨日を以て無事着城相成候、記者は公が老軀を提げ此艱寒の候に際し、任地に駐在せらるゝの心勞を多とし、御役目御苦勞と三唱するを禁ずる能はざるものに候

●公の記臆にも存せらるならん公は曾てラッド博士に向ひ「余の本國は朝鮮なり、君にして余の國に敵せんか、余は余の帝國を以て君を保護すべし」と、[illegible]

●長白山附近の間島移住者が朝鮮を以て余の本國なりと[illegible]

[illegible]者の客觀的立場が一致せざらん事を切望致[illegible]

●度支部が人蔘耕作者中の十四名へ[illegible]以下を授賞したるは一寸氣の利きたる遣方にて[illegible]

●蔘政法は一方に國稅を有すると同時に他の一方に蔘業者を有し紅蔘不合格の生人蔘を[illegible]人蔘を手堀せ[illegible]の處刑に處するとの事は有之候、韓人に臨むは凡べて此筆法ならざるべからず蔘政法は僅かに要領を得るに近きものに有之候

●毎年冬期に入りて邦人も韓人も均しく苦痛を感ずるは燃料の高價となることに有之候、我鐵道管理局が平壤無烟炭の運賃を冬期中特別割引を爲すに至りたるは至極時宜に適ひたる措置と存候

●由來韓國拓殖の一大障害は冬期に於て廉價なる燃料の乏しきことに有之候、此點より申せば記者の希望は我鐵道が獨り無烟炭のみならず一般の薪炭をも可成安運賃にて輸送することを切望致候

●大倉喜八郎氏の經濟協會に於ける懷舊談は後進者にとりて實際興奮劑と相成申候、特に氏が西南戰役の眞最中大久保內務卿の命を受け韓國の饑饉を救はんが爲に米を輸送し來り歸路釜山より一小漁船に搭じ對馬海峽を乘切りたるの一條は氏が非凡の豪膽者なることを示して後進者の爲に鍊膽劑と相成申候

●鶴彥翁越後の出にて貨殖に敏なるも慾極めて淺からずと評せらる、知ずや他人に倍して財を有する者が他人に倍して苦勞せし者たることを、翁最も佛像を愛す、近來佛心翁に宿り大倉商業學校、善隣商業學校等を生ましめ申候

●加藤本四郎君の死は記者の期せざりしところに有之候、君天資英邁剛毅學殖また淺からず僅かに未來の大使として目され居りしに惜しむべし白玉樓中の人となる　謹で哀悼の意を表し申候

香港電報

▲某議員の非議

下院議員某は桑港の邦人が酒類を販賣し居るを見て之れ[illegible]條約に違反するも[illegible]

▲印度洪水の慘害

印度の洪水は非常に慘害を極め之が恢復には尙ほ前後二十五年間を要すべしといふ（二十五日東京經由）

東京電報

▲興業債券の好況

巴里に於ける興業債券の申込超過は七倍以上に達したる由なり佛國にては一般に[illegible]ソシエテゼネラルの代理[illegible]のみの申込[illegible]

▲米艦隊の演習

米國東航艦隊は近々マニラに於て演習を開始すべく[illegible]の巡洋艦三隻は南清[illegible]ため演習に參加せしむべし

▲後藤男と衆議院

後藤男の電話度數制は衆議院開始に對する批難烈しく今期議會にては包圍攻撃に陷るべし

雜報

●統監仁川着の狀況

伊藤統監を乘せたる軍艦春日は昨日正午十二時に仁川港に着したり出迎人曾禰副統監牟田參謀長鍋島參與官及其他の文武官韓國側各大臣次官等軍艦を訪問して親しく老統監を迎へたり統監公には不相變矍鑠として微笑を湛へつゝ一々出迎人に挨拶せらる茲に於てシャンペンは拔かれて統監公の万歲を祝す斯くして午後二時過ぎ小蒸氣船に移り二時半第一棧橋に上陸せられ腕車にて仁川停車場に向はれ暫時茲に休憩せられて三時十七分發の滊車にて京城に向はれたり見送り人は信夫理事官及宮木稅關長富田民長民團議員等無慮二百餘名なりき

●統監の入城

伊藤統監には昨日午後四時五十分南大門に安着せられたり韓皇よりは勅使として侍從武官長趙民熙を差遣せらる公の背後には仁川迄出迎はれたる曾禰副統監を始め文武百官金色燦然綺羅星の如く從ひたり公には不相變葉卷を燻しつゝ悠々迫らざる態度を以て步をプラットホームに移し微笑を含みつゝ出迎人に挨拶せられ曾禰副統監及其他に何事か語りつゝ統監邸より差廻はせる馬車に乘られ沿道の風色を眺めて喜色滿面に溢れつゝ統監邸に入られたり、因に南大門附近は例によりシルクハット金モール服の文武官恰も織るが如く一時は非常の雜沓を極めたりき

●盛宣懷の紡績事業

去る二十一日歸國の途に就きたる盛宣懷氏は夙に紡績事業を經營せんとするの計畫ありし久しく其畫中なりしが神戸に滯在中鐘淵紡績會社を視察したる結果歸國の上直に設立に着手する筈にて其設計及び經營方法等に就て武藤山治氏より詳細の意見を聞き尙ほ兩三回會見を遂げたるが今後も同氏の助言を得べき事を約したりといふ設立地は上海にして資本の如きは未定なるも在來の上海の紡績業に比し遙かに有力のものたらしむべしと云へり

●新渡戸博士の演說

東京在留清國青年會の招きに應じて同博士がなしたる演說は一寸面白ければ茲に其要を拔摘す

[illegible]敗に因て倒れたる事實なるが羅馬の全盛は實に全世界を壓倒したり當時シリアの一寒村に敎旗を樹てたる基督は愛國者の一人なりしも決して叛旗を飜へしたるにあらず而も或る者は基督に迫り數千の兵を率ゐて叛旗を擧げん事を勸めしも基督は更に之を顧みず我が信念を廣むるは一羅馬にあらず全世界なりとの偉大なる思想を有せし人なり今諸君の前に立て羅馬滅亡史を引用するは甚だ好まざる所なるが古今を問はず國敎の念は諸君も拙者も更に變らざるべく救國の方法又種々あるも軍備にあらず法律にあらず要は唯正義道德觀念の發達に歸着す宗敎の要義はホールマン即ち俯仰天地に恥ぢざるの人を造るに在り一擧手一投足其の信念より出づるの人にあらざれば眞の宗敎を語る能はず羅馬滅亡の當時は人心の頹廢其極に達せるを知らず人心の改革を度外視せるの結果衰亡を招けり故に諸君は此の信念を以て人心を改革するに在り云々

●經濟協會總會

韓國經濟協會は一昨二十四日午後六時より日本人俱樂部に於て大倉喜八郎氏の歡迎を兼ね其總會を開催せり順序は始めに役員の改選なりしが出席會員一同の希望により市原前幹事長を座長に推し前評議員九名を重任せしめ殘り三名を座長の指名を以て選定することゝなせしに座長は石塚英藏、岡正矣、頭本元貞の三氏を指名選定したり夫より來賓大倉氏は會員の請により明治九年氏が始めて來韓したる時よりの興味ある懷舊談を試み次に度支部技師坂出鳴海氏の港灣に關する有益なる講話あり、了つて散會したるは午後十時頃なりし、當夜の出席者は來賓大倉氏の外官民會員五十餘名なりしといふ因に評議員の互選により幹事長は市原博士幹事は清水、頭本の兩氏と定りたりと云ふ

●布哇の大軍港

米國にては布哇のペアール港を軍港とし太平洋上の根據地たらしめんと既に敷地購入費約六千六萬二千圓、開鑿費二十萬圓等を支出したる由なるが本年度にては更に約二百萬圓を支出すると決せり因に先般回航艦隊の布哇寄港の際は未だ此所にて石炭搭載をなす能はず止なく內四隻はマニラ島に回航して石炭搭載をなし其他は皆ホノルヽにて石炭其他軍需品を積載せしが其不便言ふべからざりしより大にアペール軍港の完成を急ぎ千九百十年の春までには完成せしむることに決定したり

●無煙炭輸送紛議

平壤鑛務所採掘の無烟炭を海軍所屬德山煉炭所へ一ヶ年四萬噸づゝを供給することは先立て煉炭所長武田大佐來韓の砌り決定したるものゝ由なるが、右無烟炭の輸送受負を林鑛務所長の計ひにて仁川の秋田毅氏に爲さしめたるより鎭南浦商人諸氏の憤る[illegible]となりたるを以て秋本理事官は事容易ならずと見てとり目下紛議調停に盡力中なりしが、さるにても林所長は何が故に經濟的生命を有せざる秋田氏をして斯る大責任ある輸送受負を爲さしめたるか甚だ不審の次第なりと云ふ者あり

●水道引込料直下げ

水道引込料が意外に高價なる爲各戸に於て水道使用に付躊躇しつゝありたるは事實なるが今回大韓水道會社に於ても此邊の事情を諒解し近々各戸專用管据付料を大に直下げすべしと云ふ

●日本の石油商戰

本秋の石油相場は未曾有の變調を呈したるも上げ兼ねて強保合を持續せる矢先スタンダード石油會社が十五日思切りたる虎印の値下げを斷行したるより形勢一變して軟弱となり且又越後の石油湧出量は日に激增するに加へてライジングサン石油會社の新設に從事せる博多灣頭西戸崎製油所は愈よ來月一日南洋より第一回の原油を運送船が七千噸を輸入する筈なるを以て米油以外の內外油も二錢方は引下ぐるならんかとの噂さへ傳はり人氣は一段と弱氣に傾き此際ウカと格安に見ゆる虎印を買進みても跡で他の內外油に下げられては一大事なり而も虎印の現品は二十箱に一本の割合に過ぎざれば未だ人氣を集注するに足らずして十五六兩日間に漸く一萬五千箱位を賣捌きたるに過ぎず左れば米油は一般の買氣を呼ばん爲めか將又虎印を一層格安に見せん商策か關西にては去十七日より關東にては十八日午後より俄然チャスタと勝利を二錢方引上げて人氣の意表に出でたるを以て強弱相互の材料交々亂れ五里霧中に迷ひ頃日の市場は荷動存外に閑散なりと云ふ

●韓國鐵道運輸聯合會

豫報の如く韓國鐵道運輸聯合會は去る二十三日龍山桃山館に於て創立大會を擧行したるが會員の出席者四十四名に達し開會に先ち創立委員立石幹氏より發起以來の顚末報告あり引續き同氏を假議長に推して會則案、規程、事務所を龍山に置くの件、機關雜誌發行の件、加入金徵收の件、創立費承諾の件等を議題とし全部委員提出案を可決し役員選擧は便宜指名とし別項の諸氏を擧げ閉會後會員一同紀念撮影をなし宴席に移りたるが席上木村事務員は各地よりの祝電を朗讀し松原榮氏の挨拶あり散會したるは十時過なりき

會長立石幹（仁川）副會長中村凌松（釜山）
理事松原榮（龍山）同　中村芳松（京城）
同川添三次（仁川）
監査役丹橋一郎（釜山）同根岸利三郎（仁川）
同　內林兼二郎（平壤）
評議員川村啓二郎（京城）同徐午淳（京城）
同尹衡叔（仁川）同荒井信之（釜山）同西口喜一郎（金泉）同田村幹亮（水原）同古川文之助（大邱）同田村保吉（新幕）同中村晉藤次（平壤）同田中清四郎（新義州）

●各國居留地の選擧

仁川各國居留地議員選擧權に關する同題即ち該制度を一區一票に變更するの件は過日の居留地會に於いて委員附托となりたるとは既報の如くなるが右議員の選擧は來月二日に迫り居るを以て多分同問題の落着を見ざる中に現行規則に依りこれを執行すべしと一般に豫想し居れり

●商業會議所總會

仁川商業會議所にては明二十七日午後　時より同所樓上に於いて定期總會を開き左の四案に就き協議する筈なり

一、明治四十一年度收支決算報告の件
二、穀物檢査施行の件
三、明治四十二年度追加收支豫算の件
四、常議員一名補缺選擧の件

●穀物協會の交涉

仁川穀物協會にては穀物檢査の執行に伴ひ改良機を据附ざるべからざることゝなれるに同協會附近には適當の空地なきを以て此程同地民團役所へ引斗量場構內地一部を割きて無料貸與されたき旨仁川商業會議所を經て民團役所に交涉したる由なるが何れ近日中決定すべしと云ふ

●東清鐵道運賃改正

露曆十一月十四日より愈々改正さるべき東清鐵道運賃率は既に確定せるを以て同日より實行に至るべし同鐵道及びウスリー鐵道との連絡運賃率は從來のものと左迄の相違なく雜穀に對しては僅少の割引を見たるも只豆粕のみは意外に高運賃を課せられたり哈爾賓より浦潮に至る兩鐵道連絡運賃一率及び一プードに對する諸雜穀の賃率を示せば

種別	一プード	諸費用	一車諸費用
大麥、小麥	廿一哥一	一哥二	十六哥
大豆、豆粕、粟、高粱其他	十八可一	同	同
麥粉	廿一可一	同	同
フスマ	十四可八	同	同
哈爾賓寛城子間の運賃率			
大小麥、大豆、麥粕、豆粕、フスマ其他	十三可五	二可	十四可
石炭	三可八	一可七	同
薪及び一般木材	五可八	二可　一可七	同

裁表によれば當地寛城子間雜穀運賃率は從來の一プードに付き一四可三、手數料二可三に比し著しき低率なり本年は農產物非常に豐穰穀物の市價は古今の低價に暴落せり

●仁川大豆の好況

仁川市場に於ける大豆の相場は既に五十錢方上騰し火の消えたる如くなりし同港への出廻りも漸く增加し今後益々殷盛を極めんとするの氣味あり今斯く好景氣を呈するに至れる原因なりと云ふを聞くに機敏なる我商人は近き將來に於て清國に大凶變生ずべきを豫測し見越買をなす者多きがためならんと

●仁川自働電話狀況

仁川市內各局に於ける自働電話の交換狀況を聞くに左の如し

	發信度數	時數	料金
[illegible]	[illegible]	[illegible]	五、八
仁川內	[illegible]	三三	六、四
波止場	二	二	〇、四
細見驛內	二五	二六	五、二
合計	八二	八九	一七、八

●穀物協會の手數料

今回仁川穀物協會にて會議所の囑託を受け執行する穀物檢査に付き略ぼ決定せる檢査手數料を聞くに左の如し

玄米	一石	二錢
籾	同	二錢
大豆	同	二錢
小豆	同	二錢
大麥	同	二錢
小麥	同	二錢

●門司實業團の招待會

一昨夜六時卅分花月樓に開かれたる門司實業家及新聞記者一團の招待會には最初熊谷民長の挨拶あり次で加納九州鐵道運輸課長の答辭ありて後酒宴に移る酒間藝妓の手踊り等ありて中々盛なりき來賓としては門司市參事會員及實業家新聞記者等四十餘名にして主人側にては民長及商業會議所員新聞記者等十有餘名なりき歡を盡くして散會せしは午後九時半過ぎなりき

●基督敎徒の集會

昨日午後七時より日本基督敎會の信者等渡邊暢氏の宅に集會したり此集會は先づ第一の事なれば氏名經歷等を知る必要ある上に就いて自己の紹介をなすべしと石原牧師の發議に基き各自住所氏名年齡職業並に經歷を簡單に述べ散會したるは午後十一時なりき此より毎週金曜日には順番を以て信者の宅に集まり懇話をなすことに決したり因に來月五六日頃には京城基督青年會の爲井深、大塚、貴山、丹羽、フイシャーの諸氏入京大擧傳道をなす由

●加藤本四郎氏の逝去

元仁川理事官加藤本四郎氏が舌癌に罹り東京に於て去る二十一日逝去せることは既報せし所なるが仁川民團役所にては其報に接するや直に「御良人御逝去の由哀悼に堪えず」との弔電を發したりと

●加藤氏の追弔會

信夫、加來、田中、額原、桑野、稻田、末永、藤木、豐田等の諸氏二十餘名の仁川有志は本日午後四時より本願寺別院に於て故加藤本四郎氏の追弔會を執行する由

公人私人

▲齋藤金助（韓國參政部長）廿四日入城[illegible]
▲野手耐（元山稅關長）廿四日歸任
▲竹川新太郎（同主事）同上
▲篠田次竹（濟州警察署長）廿四日水原へ向け出發
▲龜井芳雄（土木技師）廿四日仁川へ向け出發
▲西平（濟州地方裁判所長）同上

●近事片々

▲伊藤公は愈々歸任せらる國家の爲とは云ひ乍ら御老躰嘸こそと察するの外無之候
▲公が帝都を發するや清國凶變の報に接せらる公の胸中更に懸念增加する所あらん
▲[illegible]ざるならむ願くは步を北京に進轉せよかし
▲韓國の事も公の巨腕を要すること多からむが清國の狀態は更に公を要する者あり
▲併し清國の事は別に其人あり乃公は半島の經營をなさんとの考慮あらば止むなし
▲地方暴徒は今尙ほ猖獗なり之には公の心算も多少齟齬せしならん何時鎭滅すべき
▲今回の歸任には暴徒の如きも全く鎭定し居るべき御考ありしならむ惜執拗なる哉
▲全羅忠淸方面の暴徒は却て增加の徵候ありとの說あり果して然らば實に困り切る
▲出沒自在にして米穀の收穫を害するに至ては此儘になし置く可らず如何にすべき
▲金允植を中心とせる一派は統監歸任により赤飛躍し始めたり果して其効力ありや
▲伊藤統監は唯の如く果して內閣更迭を斷行するや否や雲行の觀測に熱する徒多し
▲李允用を中心とする一派も活動を始むとは內閣の一部更迭を目的として起てる也
▲一部更迭とは宋秉畯排斥なり李宋內閣に非ずして純たる李內閣を組織するにあり
▲宋秉畯が不相變傲語を放つて雄を語りつゝある所を見れば或は現閣居据ならむ乎
▲併し宋氏が傲語の裡面に多少恐懼の態見ると訪客傳ふ然らば雲行多少荒々たり
▲韓政客等目を丸くして伊公の一擧一動を環視し其變遷をトせんとするものゝ如し
▲李完用近來更に動かず自若として大勢を揣摩するものゝ如し渠や大に徹底せし乎
▲伊公歸任して完用氏如何なる態度を採るべきや渠が現閣維持策は既に定れるにや
▲完用氏は宋氏の如く咆哮せざるも其胸中には幾多の籌策を畫きつゝあらんと云ふ
▲清國に對する列國の態度は如何米國が何等か日本に協商する所ありしは事實らし
▲英國の態度毅然として清國保全を主張して動かざる模樣帝國も亦同一態度あらむ
▲佛國は最も利害を感ずるにも拘らず靜に觀望しつゝあり前途如何の態度を取らん
▲獨逸は巨眼を瞪いて東方の天を眺めつゝあらんが今の瓜分說の餘地或はなからむ

續奇緣（一）

ひで子

曇りし空の木枯や、松と樅との連理の森、茶店の灯影跡絶へて、冬の夜更けし倭城臺、見返る市街は灯火の、光り漂ふ町縮き、通る男女は戀の闇、導びく道や死神の、因果と因果宗業の、いかよう月の朝霧と、明朝は浮名を唱はれ、深き緣を知られども、

『ねえ菊、皆私の意氣地無しから、今更飛んだ罪を作るよ、免して吳れ……』

『何の々々、是れも妾の足りないから起つた事、堪忍して下さいよ』

一思へは私の兄弟は、因縁とでも謂ふのだらふ、日外話した兄の横死、是れも江の島で、暴風雨の夜、小舟で沖へ行つた切りさ、矢張情死して仕舞ツたが原因は老母さんが夫婦にさせぬの結果だツた、夫れ迄は、彼の淨瑠璃や新內の、情死と云ふ物を、一向氣に留めなかつたが、兄の情死以來からは、怎も感じが違ツて來た、是れも必竟今夜の此運命である知らせだらふ」

蹲んで居た若い男は、微かにホツと吐息をついた、膝をゆすツて男の顏を、見上げた女は、緊かと手を執り、

『妾は、身內の無い躰、夫れに引換へ貴郎には、お妹さんが有るんですもの、ね氣の毒で、ね氣の毒で……』

『ね前も身內が、有るじや無いか……』

『兄さんですか、アノ擺賊の……十五の歲から、家を出て、今以て行方知れず、別に逢ひたい共思ひません……』

ハラ／＼と、前に散りの、殘りの雪の乳白木の葉か雨か、靜寂を破つて、音もなく、き谷、視るから死出の途寥し。

『いつ迄經ツても、切りが無い、ね菊覺悟して吳れ……』

『ハイ……』

●悲業の最後

……憎む情夫、哀れな幼兒……

一昨日午後四時頃西部靑坡二契藥種商高谷タケ（三四）方にて頻りに兒共の泣き聲がし何時迄經ても泣き止まざるより隣家に住める松浦宇一といふが何うした譯かと同家に赴き見し所不思議なことには其の日に限つてピツシヤリと雨戶鎖され居るより宇一は不審の念ます／＼加はり雨戶をば無理遣りに外して家內に入りマツチを點して『おタケさん／＼』と二三度聲を掛けしも更に返事のなきより今度は小兒の聲を辿りて別の間に至りしも所タケは蒲團の上に俯向けとなり兩眼をば半ば開きたるまゝ伏し居る樣子の如何にも怪しければ宇一は爲念胸に手を當て調べ見し所は如何に全身氷の如く冷かに死亡し居るより宇一は一方ならず打ち驚き早速西部警察署に訴へ出でたれば懸て警察よりは巡査醫者出張し檢視を遂げし所死因は腦胃加答兒にて死骸は宇一の好意に依り早速同人に引き渡し同時に小兒の正次（二）も一時保護方を托したり、因にタケは數年前よりある病院の藥劑士と情を重ね居る噂さありしかば正次は言ふ迄もなく其間に出來た兒に相違なかるべきも其の情夫といふが正次が生れてからといふものはタケを非常に虐待し碌々生活の費用さへも當てがわず從つて今回の病氣に罹りてよりも醫藥は勿論其他の手當さへ施さず終に斯く悲業の最後を遂げたるものなるべしとは專ら近所での評判なりさるにても憎むべきは情夫憐れなるは跡に殘りし幼兒なり

●[illegible]僧侶

……女に魔睡劑を懸ける……

身に三衣を纏ふ僧侶の身にてありながら女色に惑溺をなし果ては女の面部を負傷せしめ恬として恥ざる墮落僧が我れこそ韓國布敎師にて候と善男善女を迷はし居るとは如何に末世とは云ひながら歎ずべき限りならずや仁川は新町二丁目金村下宿屋に先頃より下宿せる僧侶あるが其の言ふ所を聞くに自分は山口縣のものにして大悟徹底せる擢僧なり夢粗略に待遇すると承知せぬぞと威の一間に陣取り毎日ブラ／＼と遊びける中に豫ねて覺わたる催眠術を同家の下女に懸け僧侶にあるまじき行爲をなし果ては同宿人に迷惑を懸けたることも間々ありたるが其後彼れは身に貯への餘りに豐かならざる爲め去る頃同地寺町一丁目に細やかなる貸家を借り寓居をなし居たるが身に羅衣を纏ひ殊勝らしく見すれど根が凡夫の悲しさ旅の閨の寥しさに宜き相手を探がし居りたる折柄一昨日午後一時半のこと前記下宿屋金村方の下女白井スヱ（二十五）と云ふが花町なる支店より本店に歸らんとする途中圖らずも僧侶は之を認めたるが女は以前例の催眠術にかゝりたる程の仲なれば無氣に振り切つて歸ることもならずやむなく僧侶の云ふがまゝ其の寓居に誘はれけるがサテ其の後の事は知るに由なきも程經てれすゑは口中より血を吐き出したれば最寄の派出所に訴へ出で其中立に只今男と雜談中男は突然私の面部を打ち此の通りの傷を受けましたとのことに警官も捨て置けずスヱと同道にて右の下宿に出張し取調べたる所元より見知り合ひの仲にて何かの事より爭論して以上の始末となりたるものなるより懇々說諭を加へたるが此の裏面には頗る珍聞ありと近所隣にて大評判を爲し居るといふさるにても如何に末の世とは云ひながら困つた僧侶もあるものかな

●小萬の僞義侠

……贔られたのが原因……

新町松葉樓に其の妓ありと知られたる小萬姐は生れは大阪にて此の春頃迄は龍山にて淺川竹の泥水稼業に浮身を窶し居りたるがサテ思つた程面白き資入もなきより本年三月今の處へ鞍替へし數多の客をば世辭で丸めて手管で殺し居る中間もなく統監府の銀筋山下とかいふ男と割りなき仲となり、終には無理な遊興費も此方から立てひきして男をば呼び出し偶の逢瀨を樂みに嬉しき情を交はし居ることがいつしか朋輩衆の嗅ぎ知る所となり明けても暮れても『小萬さんは美ましいこと』と贔らるゝがつらさに小萬は躍氣となり幸ひ主人こいふがシミツタレにて平常より妓共達に辛く當るを奇貨とし『皆さんソウ妾しを贔らすともよいではありませんか、其の代り妾しが常々よりの主人の困業を皆さんに代つて思ふ存分言つて上げますからとグツト反身になりて俄かに義侠心を出し或る日思ひ決して主人の部屋に赴きしはよきも何うやら斯う氣が怖けて口には出でず『何に其の妾しの今日迄の借金がオイクラ位でせう……』と好い加減にお茶を濁して約束のことを言はざるよりトウ／＼此のことが朋輩衆の耳に入り『小萬さんは口許りの人と』今では皆の衆より恨まれ居るとかの郞雀よりの注進のまゝを

●店員月評記

篠崎商店員 堺谷計三郎氏

氏は長崎縣鬼ヶ島の產、三十七年渡韓して京城町田支店に入り在勤滿三ケ年の後篠崎商店に移勤したのである、人となり不羈放膽落々として些も事物に拘泥しない故を以て容貌容易に色に現はれず、恬淡として言動[illegible]の會計で、二六時中些の倦色なく刻々營々として職務に從事して居る、而して性質の磊落なる割には極めて計算的事務に敏く、執務の跡截然整然として些の遺算がない現今にては主人の信用極めて厚く、同僚からも尊敬を受けて居る

同店員 小島平助氏

氏は幼少の頃より壹岐の豪商小島商店に奉公し滿九ヶ年間勤續の後地方販賣部の主任として或る都會に赴き更に三年間在勤し大に主家の爲め効績を遺し篠崎商店に入ツたのが昨年の十二月である原籍は長崎縣鬼ヶ島、年齡未だ不惑に達せざるも一見何處となく老成の風がある資性溫籍にして雍容、而も思慮綿密、用意周到一毫の末、一微の細と雖も苟もしない從つて內勤は其の得意とする所で未だ曾て事に處して齟齬がなく、客に接して感情を損ねたことがないツマリ前記の堺谷氏とは正反對の性質である、が今では兩人共其の短を補ひ其欠を充たしやツて居るので主人も店の双美として喜んで居るさうだ現在の地位は內勤の主任である

同店員 森本森次氏

渡韓したのは昨年の十月直ちに入つて篠崎商店の店員となつたのである生れは熊本縣天草郡、土地の小學校に業を了へると共に將來は一廉の商賣人となりて立派な暖簾の主人となりたいといふ健氣な希望から兩親とも相談の上土地のある商店に身を委ね實地の習練を經て中途から渡韓したのである性質は常世の青年として珍らしい程着實で何ち等かといふと溜瀞の方である主人の寵愛頗る厚く追つて平壤に支店を設けらるゝ曉は之が主任として赴くさうである

●三罪倶發

鹿兒島縣薩摩郡宮城村平川二百四十六番地現住所北米倉町四番地秋田松次郎方宮園堅二（十九）は九月十三日某新聞社に雇はれ居る中社宛來たりし京義線阿川組よりの小爲替證二圓を竊取し自己の氏名を[illegible]し押印の上本町郵便局より金圓を受取り又十一月十三日午後六時西部獨立門二丁町十一番地江原忠立より他に入質する意思を以て蒲團二枚を一日十錢の貸料にて借り受け騙取し及び同月十七日午後九時頃旭町一丁目福島爲次郎方の短靴一足を竊取し何喰はぬ顏をして居る所を一昨日其の筋の手に取り押へられたり

●金の催促に兇器持參

大和町一丁目管原方大工職寺田藤三郎（二九）及び本町五丁目林組車夫角脇米三郎（二七）の二人は一昨日午後八時半頃旭町一丁目百五十二番地大工職中沼虎吉方へ賭博の貸金請求の爲め兇器を持參し强談に及んだので昨日拘留三日に處せられたり

●人を疑つたが原因

一昨日午後十一時頃南山町二丁目十三番地左官職瀨川平吉（四五）方にて二三名の來客あり大いに酒を呑み居りしが聽て何れも十二分の酩酊をなしたる時分客の一人なる旭町二丁目十番地煉瓦職下田浦松なるものが自分は先き程此處で一圓紙幣を紛失したが必定瀨川か盜んだに相違なしと思ひ込んだ事が端なくも口に辷つたのが原因となり大立廻りを演じたるが結局南部署の手數を煩はし說諭を受けて中直りせり、

●仁川消防組の演習

仁川警察署にては豫報の如く本日午前九時警鐘二點を合圖として市內各消防組の大演習を催す筈なるが其の順序は最初警察署前に整列し署長訓諭をなしたる上隊五整々万石町自轉車競走場迄驅足にて行進し同地に於いて假裝的設水、水力試驗を執行し尚余興數番をなしたる後更に各町辻々にて梯子乘をなすなりと

●無錢遊興

仁川濱町二丁目大一商會職工蘇田源一郎（三二）は一昨日午後三時頃同地寺町二丁目飲食店三日月亭に登樓し飮めよ唄へよと大散財をなしたるまではよかりしもイザ勘定となるや例の無一文にて三圓二十錢の支拂ひの出來ぬ爲め同亭より警官の出張を仰ぎたるが結局源一郎より翌日支拂ふこととして事濟みとなる

●十圓入りの財布を拾ふ

仁川濱町二丁目畑常四郎妻みたと云ふは一昨日午前十一時頃同町仁川鐵工所街路に於いて金十圓入りの財布を拾ひ直に最寄警察に屆け出づ心當りの者はなきにや

●年増のお灸

長崎縣下縣郡當地西部靑坡二十番戶飯田サイ（三五）は去月來無免許で質屋營業を開始し居りしを西部署の認むる處となり一圓のお灸を頭の上にすゑらる

●路上で掴み合ひ

南部下席洞人夫沈基[illegible]（三〇）西部校珠峴人力車夫崔元三（三四）の二人は一昨日午後何處で飲んだか非常に酩酊し南部蒜洞通りで通行のものを强かに毆打したので本署に引致されたり

同可娯欄（廿六）

●[illegible]詠●

（[illegible]）

▲山本義雄君 ●●●●

頓才や機智に長じて商界に●●●●

其の名も高き山本の手腕

▲松村近太郎君 ●●●●

浮雲に倦す撓まず練磨して●●●●

いまぞかゝやく松村の月

▲加藤甲四郎君 ●●●●

朝鮮に其の名殘せし加藤公●●●●

むかしの人に君劣るまじ

●壽座今晩の藝題

同座本晩の替り狂言は一番目『ピストル强盜』二番目『白浪五人男』にて重もなる配役左の如し

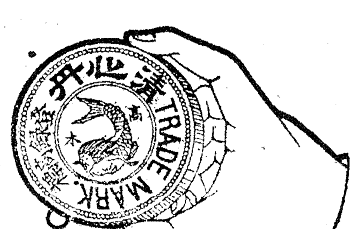
淸水定吉、番頭久七（稻葉）妹貌者小菊、若旦那總之助（堀江）丁稚長松、部長加藤昇（常盤）佃の二郎藏、蔦之者長吉（吉井）小川太吉郎、南鄕力丸（田宮）日本駄左衛門、杵屋主人庄兵衛（松村）山川巡査、濱松屋主人惣兵衛（福井）刑事（篠原）署長佐伯房則番頭忠八（佐海）郵便夫、番頭（阪本）銀行員山本仲間平內（櫻木）ピイ／＼小僧刑事（島村）藝妓小ふじ辨天小僧菊之助（酒井）

落語

猫久（八）

會話標小さん口演

女「何が何うしたんだい　熊「何うしたつて手前先刻猫久の嚊アが脇差を頂いたのを手前笑つたらう　女「れ前さんだつて笑つたぢやないか　熊「乃公は手前の氣を引く爲に笑つたんだ手前笑つたらう　女「アヽ　熊「笑つた貴樣が可笑しいぞ　女「高慢なことをれ言でない　熊「其譯を聞きたくばれ聞かせ申さうか　女「言ふなら聞かしてれ呉れ　熊「聞きたくば是へ出へ　女「あゝ夫れは何んだい　熊「其處に座はれ　女「デエ〳〵や見たやうに　女「座つてるよ　熊「貴樣人間か人間ならば魂があるだらう　女「魂のなんやつがあるものかね　熊「魂があるならば猿サイカツに木に登る能く度胸を落付けて座はれ　女「座つてるつてとサ　熊「猫と字名をされて見れば　女「エヽ　熊「是れ猫久だ　女「誰れだつて知つてらアね　熊「今日逃れざる　女「何んだい　熊「逃れざるやと喧嘩をしたな　女「アラちよいと向ふの久さんはざるやと喧嘩をしたのかい　熊「ザ妻なるものは……　女「何んだかれ前のいふことは些つとも分りやしない　熊「妻なるものは女房であつて見れば家内のものは妻で神さんだぞ　女「誰れだつて知つてるよ　熊「夫が異録女房唐金眞鍮磨きの唐金なりかな　女「れ前のいふことは妻には譯が分らないよ　熊「說に妙見鍛錬治を致す……　女「誰れがしたんだい　熊「默つて聞いてろ……脇差をヤア頂くだらう　女「何うして　熊「先きにも怪我のないやうに夫に怪我のないやうに祈る神樣佛樣妙見樣に精進も戻らしやんして顏見るまで　女「然りやアれ前千兩幟の淨瑠理ぢやないか　熊「夫りや間違つた僕も二十五歳になる倅がある　女「れ前二十八ぢやないか　熊「世の諺にグ……　熊「何んだい　熊「世の諺にグ……　女「耳盥を上げやうか　熊「グサンヨ長さんひよつとこ般若の面　熊「何んだか些つとも分らない　熊「錦の女づくしを聞いて黙くならン孝女よちよう女　女「夫れから　熊「エヽせんぞやまんぞ　女「なんだい　熊「孝女なりちよう女なりせんぞなりまんぞなりといふんだ　女「夫れから　熊「通れ〳〵　女「夫れから　熊「甘茶でわつはれ　女「何んだいれ前のいふことは些つとも分らない何うしたんだい　熊「亭主が喧嘩をした時には魂を猫久の嚊ア見たやうにちやんと斯う女房が頂くやうで無くつちや亭主の器量も上る譯にはいかない猫の嚊アが脇差を頂いたことを今理髪床で乃公が話したら向ふに立派な昔しのれ侍今の御士族が其の髪結床に居たんだ手前なんざ何時も劍突ばかり喰はして鉋棒奴是れから些つと氣を附けろユ、亭主が喧嘩をした時に脇差を頂くのは大變な譯だ其位のことは手前にも出來るだらう　女「出來ますよ　熊「夫れぢや今度乃公が喧嘩をした時にやるから忘れるな　女「宜いよ分つたよ」其日は夫れで仕舞ひ致したが或る日此ガラ熊先生鰯が安いので澤山買込みました是れで何にかツミイレか何にか拵へやうとふので固より裏店は夫婦差向ひのことで晩方にれ神さんは側で仕事をして居る。熊「乃公が手傳つてやらう」といふので鰯を擂鉢の中に入れまして一生懸命に摺つて居ると擂へかけた鰯を格子から犬が這入つて參りましてからにワット一口に其鰯を食へて參りましたからガラ熊先生怒つたの怒らないの。熊「斯ん畜生オイ何か打擲るものを出せ」といふのでれ神さん擂古木を持つて來て神棚の前に往つて夫れを三遍ばかり頂いて御亭主のガラ熊に渡してやりましたが間に合はなくつて犬は逃げて怪我ひました [illegible] は夫の魂を脇差と思ひまして一生懸命に頂いた是に反してガラ熊のれ神さんは夫の魂を擂古木と思つて頂いたといふ大變な了見違ひ　つの間違ひのれ話………



●購讀料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲一ヶ年
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢
發行兼編輯人　秋山忠
印刷人　高木久
發行所　京城　新報社